

やってみよう自分から もっと生かそう学んだことを ともに生きよう感謝の心で



学校だより

7月号

横浜市立谷本小学校

令和3年 6月30日

HP アドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamoto/>

こくさいへいわ 「国際平和スピーチコンテスト」

校長 和内 昭子

毎年 6 年生が日本の平和や国際平和のために、自分の考えや自分がやりたいことを言葉で表現することによって、平和に対する意識を高め、自ら実践しようとする態度の育成を目指して取り組んでいます。

今年度のテーマは「国際平和のために、自分がやりたいこと」

*「持続可能な開発目標 (SDGs) に基づく、17 の視点から選択しました。

6 年生全員が今年のテーマを基に考え、調べたことをまとめ、各クラスでスピーチを行い、クラス代表者を選びました。その後、体育館で代表者が 6 年生全体にスピーチを行い、先生方が審査し、学校代表者 1 名を選出しました。そのスピーチを紹介します。

水を大切にするために

6 年 T. H

母の友達にはバリ島に住んでいる人がいます。バリでは、水道から出る水が十分な殺菌がされておらず、私たちが飲むとお腹をこわしてしまうそうです。そこで僕は、清潔な水が水道から出ない国、水道がない国はどれだけあるかが気になりました。調べてみたら地球上に 196 か国もあるのに、たったの 12 か国しか、水道から清潔な水が出ないのです。水道が出ない理由には、大きな国だと「国中に水道を作るより、清潔な水をペットボトルに入れて売るほうがコストが安い」や「戦争をされていて水道を作る余裕などない」などの様々な例がありました。

では、なぜ日本はたった 12 か国しかない内の一つに入ることができたのでしょうか。調べてみたら、僕の住む横浜が始まりだったことがわかりました。明治 20 年、日本初の近代水道が設けられました。横浜には港があったため、海外から持ち込まれるコレラなどの水が原因で広がる伝染病を防ぐことが目的でした。その後、港のある都市を中心に続々と水道が整備され、高度経済成長期に広く普及したのです。この恵まれた環境を保つために自主的にできることはないかと考えたとき、母が廃油石鹸を毎日使っていることを思い出しました。廃油石鹸は合成洗剤に比べて環境にやさしい石鹸だそうです。僕たちが毎日流している生活排水を少しでもきれいにするためにできることは何でしょう。例えば、醤油 15ml をきれいな水に変えるには、お風呂 1・5 杯分の清潔な水が必要です。ラーメンの汁 200ml では 3.3 杯。使用済みてんぷら油 500ml では、なんと 330 杯も清潔な水が必要なのです。油を下水に流すと川から海へ行き、汚い水が水道のない国へ流れ着いてしまう可能性があるのです。だから油などの汚れを下水道に流さないことが清潔な水を飲むことができない国々を救うことに繋がるのではないのでしょうか。

僕の昨日の晩御飯は水餃子でした。いつもなら飲まずに捨てていたスープを頑張ってゴクッと飲み干しました。

あなたには何ができますか？

(本文一部省略あり)

6 月 24 日 (木) に青葉区平和スピーチコンテストが開催され、堂々とスピーチを披露することができました。一人ひとりにできる小さなことの積み重ねが大きな力に変わっていくことを考える提案がたくさん出され、未来を創る子どもたちの力を感じました。